



平成30年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 竹原市地域公共交通会議（計画策定事業）の概要

竹原市の概要

- 人口 2.6万人（平成31年1月現在）
 - 面積 118平方キロメートル
- ※最新の国勢調査の値としてください。

竹原市地域公共交通会議の構成員

広島県 竹原市 芸陽バス(株) (株)安全タクシー (有)吉名交通 JR
大崎汽船(株) 山陽商船(株) 住民代表 各種団体代表 竹原商工会議所
学識経験者 中国運輸局 竹原警察署 竹原社会福祉協議会

地域公共交通の現況



地域公共交通の現況

- 鉄道：JR呉線
- 航路：大崎上島～大崎下島行，大久野島～大三島行
- 4条バス路線：芸陽バス 5系統数（内高速バス 1系統数）
- 乗合タクシー（広島空港行き含む）：安全タクシー
- 福祉移送サービス：福祉バス，福祉タクシー（市内全域）
- 高齢化率38%

具体的な課題・問題点

- 市民等のおでかけニーズに対応できておらず利便性が低下。
- 公共交通の利用環境（バス停・乗継・運行情報案内等）の改善が必要。
- 市中心部や観光スポット等の回遊行動への支援が不足。
- 高齢化等による交通弱者への対応が不十分。
- 公共交通を利用することに抵抗があり，利用者が減少。
- 車中心の生活が定着しており，公共交通に対する意識が低下。

調査事業の実施

調査事業の概要

- 地域公共交通網の改善メニューの関係機関へのヒアリング調査
- 改善メニューの実現性調査（市民・利用者アンケート等）
- 竹原市地域公共交通会議の開催
- 竹原市地域公共交通網形成計画の作成

協議会における検討

協議会の開催状況（予定） 2回開催

- 第1回（2月下旬）
地域公共交通の役割及び取組の方向性等の整理
- 第2回（3月下旬）
地域公共交通の改善の実現性の検討
事業評価について

地域住民の意見の反映

- 本年度2月に市内1,000世帯を対象にアンケート調査（郵送）及び、公共交通利用者900人を対象にアンケート調査（直接配布）等を実施する予定。

事業実施の適切性

- 事業が計画通り適切に実施された。
- 地域公共交通網形成計画策定に必要な調査ができた。

調査事業の結果の概要

- 関係機関にヒアリング調査を行い、改善策の実現性の検討を行う。【実施中】
- 市民、地域公共交通利用者にアンケートを実施し、具体的な改善策の検討を行う予定。【予定】



地域公共交通網形成計画等の計画策定
に向けた方針等

地域公共交通網形成計画等の計画策定 に向けた方針等

■ これからの竹原市の公共交通を考えるための視点（案）

<持続可能な公共交通の確保・充実>

今後の高齢化の進展を考慮し、日常生活に必要な移動手段を確保し、将来まで持続可能な公共交通を目指す。

- ・現状で、竹原市の公共交通は利用客が少なく、今後、人口減少・少子化が進んだ場合、さらに厳しい運営状況となります。また、公共交通利用客の多くは高齢者や運転免許を持たない学生等です。竹原市では、今後とも高齢化が進展するものと考えられるため、誰でも利用できる移動手段として、公共交通の役割はますます重要になると考えられます。

<利便性向上・利用促進>

市中心部に集まる施設や市外への外出に関する市民のニーズや外出動向等を考慮して、公共交通をなるべく多くの人に利用して頂くことを目指す。

- ・竹原市の中心部には、規模の大きい病院や店舗等が集まって立地しており多くの市民が利用しています。また、市民が市外へ外出する機会もあります。これらを考慮し、公共交通サービスについて可能な見直しを行い、なるべく多くの人に利用して頂くことを目指す必要があります。

<まちの活性化に資する公共交通>

市内の人気の高い観光地への来訪客や、高校生など若い世代等にも使いやすく、まちの活性化に寄与できる公共交通を目指す。

- ・竹原市には、人気の高い観光地（大久野島、町並み保存地区等）があるとともに、本市の高校へは市内外から多くの生徒が通っています。市民や高齢者だけでなく、観光客や、高校生など若い世代等にも使いやすい公共交通にして、まちの活性化につなげていくことが必要と考えられます。

<都市計画等との整合性>

現在のまちの特徴を活かすとともに、都市計画等に合わせた公共交通ネットワークとするために、必要な方策を模索する。

- ・現在、本市には、病院・店舗・公共施設等が市中心部等に集まり、また各地域の居住地もある程度まとまっており、人気の高い観光地等もあります。都市計画に位置づけられたこれらの各拠点間を繋ぐ公共交通が、現在及び将来のまちづくりをより有効にするために必要な方策を模索します。

<運行・運営面の工夫や新たな移動手段の導入>

利用客の目線で、公共交通サービスの細かな工夫やアイデアを考えるとともに、新たな移動手段や手法の導入の可能性を模索する。

- ・公共交通の使いにくい面を少しでも解消し、より多くの人に利用して頂くため、市民や利用客の目線で、可能な工夫やアイデアを考えるとともに、新たな移動手段や手法の可能性も模索します。

<複数の公共交通・主要施設等の連携>

複数の公共交通や、病院・店舗等の協力により、利用客へのサービスを充実するなど、全体として利便性の向上を目指す。

- ・竹原市には、複数の公共交通があり、また規模の大きい病院、店舗、人気の高い観光地等が立地しています。公共交通全体としての利便性の向上のため、待合環境を充実するなど、できる範囲で、利用客へのサービス面で連携する可能性を模索します。

<市民・利用者の意識・行動の変容>

公共交通の利用促進だけでなく、地球環境面や市民の健康面等も考慮して、できる範囲で過度なクルマ利用を自発的に見直すことを促す手法を模索する。

- ・竹原市では、クルマ利用への志向が高い状況にあるため、いくら公共交通サービスの工夫や見直しを行ったとしても、思うように利用されない事態に陥る危惧があります。過度なクルマ利用は、地球環境面、市民の健康面、まちの賑わい等の面への悪影響が危惧されるため、本市の将来を考えて、できる範囲で意識や行動の変容を促す手法を模索します。

地域公共交通網形成計画等の計画策定 に向けた方針等

公共交通の現状・問題等

これからの竹原市の公共交通を考えるための視点（案）

<持続可能な公共交通の確保・充実>

今後の高齢化の進展を考慮し、日常生活に必要な移動手段を確保し、将来まで持続可能な公共交通を目指す。

<利便性向上・利用促進>

市中心部に集まる施設や市外への外出に関する市民のニーズや外出動向等を考慮して、公共交通をなるべく多くの人に利用して頂くことを目指す。

<まちの活性化に資する公共交通>

市内の人気の高い観光地への来訪客や、高校生など若い世代等にも使いやすく、まちの活性化に寄与できる公共交通を目指す。

<都市計画等との整合性>

現在のまちの特徴を活かすとともに、都市計画等にあわせた公共交通ネットワークとするために、必要な方策を模索する。

<運行・運営面の工夫や新たな移動手段・手法の導入>

利用客の目線で、公共交通サービスの細かな工夫やアイデアを考えるとともに、新たな移動手段や手法の導入の可能性を模索する。

<複数の公共交通・主要施設等の連携>

複数の公共交通や、病院・店舗等の協力により、利用客へのサービスを充実するなど、全体として利便性の向上を目指す。

<市民・利用者の意識・行動の変容>

公共交通の利用促進だけでなく、地球環境面や市民の健康面等も考慮し、できる範囲で過度なクルマ利用を自発的に見直すことを促す手法を模索する。

■竹原市の公共交通が抱える課題等の改善に向けた取組の方向性（案）

（＊アイデアに関する意見交換の材料・例として）

(1)市民等の外出時の動き方等に対応する運行方法の調整

(2)高齢者等の待ち時間の負荷軽減

(3)病院・店舗から公共交通の間の移動の負荷軽減

(4)乗り継ぎの利便性向上

(5)遅延・運休時の連携

(6)市中心部等で回遊を支援・促進する方策

(7)観光客等に対する情報発信策、回遊促進策等

(8)点在する公共交通不便地区、ドアトゥドアに近いサービスを望む人への対応

(9)市民等の利用に関する抵抗感軽減策、動機づけ策等

(10)クルマ中心のライフスタイルの変容、公共交通・徒歩に対する意識の醸成